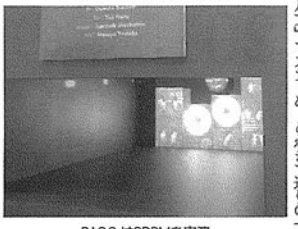
プロダクションEXPO東京など開催

初披露の作品・製品も多く出展

テレビや映画、書籍やウェブなどさまざまなコンテンツ制作を手掛ける企業が集まる「第1回プロダクションEXPO東京」および、機器メーカー向けの「第1回コンテンツ制作・配信ソリューション展」（主催＝リード エグジビション ジャパン）が3～5日、東京・有明の東京ビックサイトで開催された。ともに初めての実施だったが、映像業界からも大手企業が出展。初披露となる作品や製品も多く見られた。

イマジカ・ロボットグループ


P.I.C.S.は3DPMを実演

●イマジカ・ロボットグループ

イマジカ・ロボットは、グループ6社で初めて展示会に共同出展し、最新のサービスを紹介した。

IMAGICAは、アーチスト「Def Tech」のミュージックビデオを4Kで撮影編集した。84型モニターで初公開し、合成など仕上げはオートデスク「フレーム」を使った。メーキング撮影はキヤノン「EOS C500」と「F65」を使用した。

制作では費用や時間がどう変わるか確かめるため、これまで通りの一般的なワークフローを保った。その結果、「社内制作は通常の2Kと同様で、思いのほかスムーズに進んだ」（説明員）という。

また、CG/VFXの制作事例として、映画『デルマエ・ロマエ』やAKB48のPV、全天球シアター「スペースボール」などを紹介した。

P.I.C.S.（ピクス）は、3Dプロジェクションマッピングを手掛ける。自ら加工したCGデータを積み上げ、そこにダンスするキャラクターを投映した。2012年のIRAジャパンカップに提供したデジタルサイネージ映像も披露した。

●パナソニック映像

パナソニック映像は、自社の素材検索エンジン「mi-MAM」をインタフェースとして提供した自立型LTOアーカイブシステムを紹介した。

ブラウザーからファイルを指定フォルダーに投げるとLTOテープに映像を書き込む。棚管理機能も利用でき、CATV局など小規模事業所のアーカイブに適しているという。機器構成はサーバーとテープオートローダーで、9月に300万円以下で発売する予定。

またIMAGICAと共同開発した映像制作フロー支援プラットフォーム「ハーバー」は、3日からサービスを開始した。これまでにもパナソニックセンターなどで上映する機会はあったが、展示会で改めて紹介することで高い訴求力を見せた。

パナソニック映像

2眼式一体型3Dカメラ5台を組み合わせて、グランドキャニオン国立公園など世界遺産を撮影。人間の左右の視野角よりも広い150度で設置したモニターで上映することで、正面に立つと、その場にいるような臨場感を感じられる。

同社は「新感覚の映像空間を創造し、新たなソリューションとして提供したい」と説明。これまでにもパナソニックセンターなどで上映する機会はあったが、展示会で改めて紹介することで高い訴求力を見せた。

●ビジュアル・グラフィックス

ビジュアル・グラフィックスは、コンテンツ制作・配信ソリューション展に出展した。

素材管理システム「thiDa」とアドビ、オートデスクを中心としたノンリニア制作環境を訴求。さらにそれを支える新製品として、素材共有サーバー「エディットシェア」の可搬型「フィールドD2」を初披露した。

オンセット作業の重要性が高まるなか、キャリコンケースに納められたコンパクトな筐体で、中継車内やイベントの放送センターでの素材共有が可能。オフライン編集から効率化できる。

最大14ポートで共有でき、10ギガビットイーサネットも備える。ディスクは3・5インチSASの場合4基搭載でき、最大32テラバイトまで拡張性も持つ。このため中小規模のプロダクションで常駐して使うこともできる。

ビジュアル・グラフィックス

ディスクの読み書き時間は実測で400メガバイト/秒から。2系統のHD-SDI入力によりベースバンドキャプチャーも行える。

●シリコンスタジオ

参考出展として、集中管理型製品を展開するMOGソリューションズ社の「mxfSPEEDRAIDエクスプレス」を紹介。SDIキャプチャーとファイルインジェスト、配信、リアルタイム再生をIUの筐体で可能にする。

●シリコンスタジオ

シリコンスタジオは、TBSの『有吉AKB共和国』で採用されたリアルタイムCGソリューション「YEBIS2」を展示した。

シリコンスタジオ「YEBIS2」のデモ

同製品は業界で唯一、2Dおよび3Dグラフィックスに、ポストエフェクトをリアルタイムで施せるミドルウエア。当初はハイエンドゲームムービーで使われていた。

クレアで光を強調した背景をぼかしたりできる。光学シミュレーションをベースにしたレンズエフェクトやカラーグレーディング、アンチエイリアスも可能。指定した部分のみ加工できるバージョンアップも進めている。

ブースでは、フルCGのゲーム画像を使って実演したほか、TBSのニュース番組『ランキングスクリック』のバーチャルスタジオセットで使われているレンズエフェクトの例を紹介。CG映像に空気感を追加したり、「太陽光を見た際に明るすぎて一瞬見えなくなる」といった状況も正確に再現できる。

バーチャルスタジオシステム「プレインストームイースタジオ」でプラグインとして使用できる。

九州放送機器展2013

過去最多の119社が出展

展示フロア拡張、ブース拡大も

九州放送機器展2013会場の様子

開催10周年を記念し、第1回からの連続出展社10人によるテープカットで幕を開けた

今年で第10回を迎えた「九州放送機器展2013」が7月4～5日の2日間、福岡市博多区の福岡国際センターで開催された。

出展社数は開催直前に1社増え、最終的に過去最多の119社となった。ブースを従来よりひと回り拡大した出展社も目立ち、今年は2階席部分も展示フロアとして会場を拡張した。

福岡地区を中心に近県から、放送局やプロダクション、CATVなどの関係者が来場し、4Kシステムからファイルアーカイブ、コミュニティーチャンネル向けサービスなど、多彩なプロフェッショナル機器が競演した。

来場者は過去最多の2275人となった。

（詳細次号）